

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 21

平成29年5月22日

子どもの日記念シンポジウム・2017 開催

平成29年4月23日（日）、広島市青少年センターにおいて、弊法人が後援する、広島弁護士会主催子どもの日記念シンポジウムが開催されました。全体は2部構成で、第1部が高校演劇部と弁護士らによる演劇、第2部が高校生のフリートークでした。1部、2部ともに子どもの声を聴くということがテーマにありました。演劇には、弊法人会員、担当弁護士、担当理事が出演し、劇を通じて「手続代理人制度」を知ってもらい、活用して欲しいという思いを伝えました。

「手続代理人制度」とは、家庭裁判所における事件、例えば親権をめぐる離婚事件等において、重大な利害関係をもっているにもかかわらず、当事者たりえなかった子どもの声を代理人が事件に反映させる制度です。

演劇では、戸田理事演じる手続代理人の奮闘で、主人公の少女が次第に心を開き、離婚調停の場で、大勢の大人を前に自分の意思を表明することが描かれました。

自分の気持ちをきちんと示すこと、これは大人でも難しいことです。ましてや人生の大きな岐路に立たされた子どもが、大人の様々な思惑が介する中で、将来を決める苦しさは察するにあまりあります。私は、一人の大人としてそんな子どもの

気持ちを汲み、勇気を与えてあげられる存在になりたいと強く思いました。

シンポジウムの後には懇親会がありました。ここでは、参加した子どもたちが劇の感想等を話す機会があります。

この時、期せずして私は子どもの心に触れました。劇に出演した高校生の彼には部活動で悩みがあったのでしょうか。シンポジウムに参加し、その悩みを乗り越えることができたから部活動を続けたいと彼は言いました。そのきっかけは1通の手紙にあったそうです。「演劇は一人ではできない。周りを信じて欲しい。あなたの代わりなんていない。」という旨の手紙が彼の心を捕らえ、彼は部活動を続けることを決めたのだそうです。それを聴いて私は涙しました。私の送った1通の手紙が、心を決めるきっかけになるとは思いもしなかったからです。

思いが心を動かします。大人の真剣な思いは子どもの心を動かします。この思いを胸に私はピピオの活動を続けています。シンポジウムに参加してくださった方をはじめ、様々な形で私たちの活動を支えてくださるみなさまに感謝致します。また来年もシンポジウムでお会いしましょう。

理事 掛 幸太



常日頃から私どもの活動に様々な形でご支援、ご協力を頂き、ありがとうございます。

虐待や育児放棄など様々な事情から居場所をなくした子どもたちに居場所を提供し、寄り添い、その子の意思を尊重しながら今後の居場所や自立を調整、支援していこうとスタートして、7年目を迎えました。この間、様々な課題や困難に直面し、またこのような活動には大きなエネルギーが必要であることを実感する日々です。しかしながら、この活動に関わって下さる多くの皆様の熱意とご協力により歩みを進めてくることができました。

「ピピオの家」は今年7年目を迎え、現在までのべ43名の子が旅立っており自立援助ホーム「はばたけ荘」は今年4年目を迎えますが、これまでにのべ9名の子が旅立っております。時々、旅立っていった子から元気で前向きに歩んでいる報告を聞きますが、私たちの前進への大きなエネルギーとなっています。

「ピピオの家」や「はばたけ荘」に来る子らの入所に至った経緯は様々です。また、それまでの養育歴やその子の資質なども一人一人違ってきます。中には、成長や発達に障害を抱えた子や大きなストレスを受けて不安定になっている子、大人に対し不信感をもっている子などもあります。そして、このような子どもの中には、私たちになかなか心を開いてくれず、素直な行動がとれない子もおり、そのような子との信頼関係を結ぶことに大きな苦労やエネルギーを要することもあります。しかしながら、このような関わりの困難な子こそ、我々が少しでも寄り添い関わっていかないと、社会の中で行き詰ってしまい、自立していくこともできず、より困難な壁にぶつかってしまう可能性が高いといえます。その意味で私たちは、一人一人の子の生命や人生を守っていくとの思いで、大きな苦労は伴いますが、試行錯誤し、また仮にいい方向にいかなかったとしても我々の関わりが何らかの意味を持つことを信じて、子どもに寄り添っていきたいと考えております。

また、そのような意味で私たちは、今後とも私たちの取り組みの意義を機会あるごとに確認し合いながら、取り組みを進めていきたいと考えております。

さて、「はばたけ荘」ですが、本年4月末に常勤スタッフ1名が退職され、代替りの常勤スタッフの採用ができなかったことから、本年5月12日に一旦休止することになりました。

私どもとしては早期にスタッフを確保し、再開したいと考えており、鋭意、常勤スタッフ候補者を探しているところであります。常勤スタッフ候補者としては、社会福祉士や精神保健福祉士の資格を持っている方、教員資格がある方、2年以上児童福祉事業の経験がある方などです。皆様で推薦いただける方がおられたら、当法人の事務局にお問い合わせいただけたら幸いです。何卒、よろしくお願い申し上げます。

いずれにしても、私たちピピオ子どもセンターの活動は7年目を迎え、新たな気持ちで、今後とも、皆様方と力を合わせて、居場所をなくした子どもたちに寄り添い、未来に力強く羽ばたいて行けるようサポートしていきたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

ピピオ子どもセンター理事長 鵜野 一郎

第8回ボランティアスタッフ養成講座のご案内

本年6月7日から7月26日にかけて第8回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにお手伝いいただいております。本年度も新たなボランティアスタッフを募集したいと考えています。ボランティアスタッフに応募される方にはこの養成講座（全8講）を受講していただくこととさせていただきますので、別紙の募集案内をご覧ください。

また、この講座は、公益財団法人マツダ財団との共同事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催しており、現在ボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的とし、さらには広島近隣の大学等で福祉・教育・心理等を学ぶ学生の方など、子どもの問題に関心のある方にも参加を呼びかけています。

多くの方のご参加を希望しておりますので、よろしく願いいたします。

スタッフ通信

ピピオの家スタッフのKです。

今回は、まずボランティアさんのことです。チャイルドラインや職安に関わりのある方、調理に心得のある方、主婦の方、年齢の近い学生さん・・・と様々な方が、ボランティアスタッフ養成講座を受け、ピピオの家やはばたけ荘に来て下さいます。それぞれの個性に関わり、ボランティア活動をしていただいております。入居している子どもたちは、その時を楽しみにしています。

私たちは、誕生日会（経験の無い人もいます）、子どもの希望をとり入れた行事など、お正月から始まる年間の記念日等々を大切に過ごしているつもりですが、何しろシェルターの場合は、原則、外に出る機会の無い生活であり、また、若い女の

子は、おいしいもの・好物を食べたいけど、一方で“太ること”を気にしています。何かよい方法は無いものかと、あれこれ思いめぐらす日々です。ヒントなどいただければありがたいです。

今年も「子どもの日記念シンポジウム」では劇の上演がなされました。地元の演劇部の高校生と弁護士さんたちの熱の入った共演で、笑い涙もあり、しっかりと現状を伝えており、商業演劇に負けてはいない見ごたえのあるものでした。是非、一見されることをお勧めします。また、第2部の高校生のトークは、思春期の子どもたちの見方や気持などを知るよい機会でした。



はばたけ荘 宮島・弥山登山レク

3月19日、はばたけ荘のレクリエーション企画として、入居中の子ども達と宮島の弥山登山を行いました。

朝9時に宮島口に集合し、まずは人数分のあなご飯を購入。フェリーに乗り宮島へ向かい、紅葉谷公園を通り抜けるコースを登りはじめました。若い子ども達は体力が有り余っているのか、ハイペースで歩を進めあっという間に山頂に到着しました。頂上で皆一緒に食べたあなご飯の味は格別！ 帰りはロープウエーで景色を楽しみながら下山しました。

子ども達も普段の生活とはまた違った一面を見せてくれ、リフレッシュになったようです。心地よい疲れとともに思い出に残るレクリエーションになりました。



～共同募金・社会課題解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました～

ひなばと vol.20 号でご案内しました平成 29 年 1 月から 3 月末日までに行われた広島県共同募金会による社会課題解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。実に 116 件もの方々(個人・団体・有志等)から募金を頂戴し、期間中の合計募金額は、100 万 6742 円となり、広島県共同募金会を通じて、130 万 6742 円の交付金を頂く予定になりました。惜しくも昨年度の実績には及びませんでした。当センターと

して、募金額の合計が 100 万円を超えることは、3 年連続の快挙であり、共同募金・社会課題解決プロジェクトへの関心の高さとピピオの活動への期待を大いに感じる結果となりました。

この募金は、「ピピオの家」、「はばたけ荘」に入居する子どもたちの自立に向け、有効に使わせていただきます。

この場をお借りして、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

ピピオ掲示板

生活用品を募集しています

ピピオ子どもセンターでは、「ピピオの家」・「はばたけ荘」から巣立って一人暮らしをする子どもたちへ、家電製品や家具などの生活用品を提供しています。特に、購入すれば負担が大きい冷蔵庫・洗濯機・電子レンジや、組立式のベッド、3 段ボックスのような収納家具、タオルなどは大変役立っています。(家電品は製造から 5 年程度まで)

お手元にあります、使われていない生活用品をご提供頂ければ幸いです。

寄付等のご協力ありがとうございました

椎木様、真鍋様、兼平様、こね森内科医院様、井上様、コストコホールセールジャパン株式会社様、滝広様などの方々から寄付(金銭、プリペイドカード、生活用品等)を頂いております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。この場で御礼申し上げます。

○平成 29 年 4 月末日時点の会員数○

正会員 個人:94 名 団体:7 団体
賛助会員 個人:68 名 団体:2 団体

事務局雑記

○はばたけ荘のスタッフが欠員となっている間、夕食づくりや泊りをしてきました。家で夕食をつくる時は、自分が苦手なネギ・玉ネギを使いませんが、はばたけ荘では、炒め物や肉じゃがなどに入れる玉ネギを切ったり、すき焼き用に白ネギを(息を止めて)切ったりと、涙ぐましい(?)努力。家族に「今日はネギを切った…」と話す時、家で夕食をつくる時にも努力せよ、と言われますが、それは無理なんですよ～。<子どもたちのためだから、できること>なので…。

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル 505号

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>